

1.概要

箕面市では平成 27 年 4 月から教育課程特例制度を活用し、箕面市立中学校の全学年において、「英語コミュニケーション科」を設定し、全ての学年で毎日英語に触れる取り組みを行っています。

市内の中学校では、年間 140 時間（週 4 時間）の外国語科（英語）に加えて、総合的な学習の時間から年間 30 時間削減し、「英語コミュニケーション科」の授業時数に充てています。英語コミュニケーション科を週に 1 時間程度設定することで、毎日英語に触れられる環境作りを行うことができます。特別の教育課程を実施することで、9 年間を通して子どもたちが毎日英語に触れられる環境作りを行っています。

2.学校関係者からの意見

将来、英語でコミュニケーションを図ることができる生徒の育成を目標に、ALT 3 名と日本人教員 1 名でチームティーチングを行っています。生徒は個別指導を受けることで、即時フィードバックを受け、スピーキングの力を向上させることができます。

授業内容は、英語で話すことに「本物の」意味を持たせるようトピックを工夫し、人前で英語で発表ができるよう、スモールステップを意識した授業を行っています。また、電車の乗り換えなど、「現実的な」英語活用場面を意識した課題解決型の活動を多く取り入れるようにしています。

また、毎授業でリフレクションシートを書き、「将来になりたい自己像」と「今日できるようになったこと」を意識させ、目標に向かって少しずつ前進していることに気づかせる時間を設けています。

3.今後に向けて

これまでの取組に加え、今後は生徒同士の双方向のやり取りの時間をさらに充実させていきたいと考えています。3 年生では、スモールトークを行った後、ディベート活動に取り組む予定です。教員と生徒との英会話の時間に加え、生徒同士が英語でやり取りする機会を増やすことで、気軽に相手へ質問したり、分からなかった内容を確認し合ったりする姿が期待されます。そのような自然なコミュニケーションの中で、互いの誤りに気付いたり、表現を修正したりする機会が生まれ、誤文訂正の効果も期待できます。

また、生徒同士で会話を行うことで、教員と話す場合よりもリラックスした雰囲気の中で英語を使うことができ、発話量の増加にもつながると考えています。さらに、ワールドクラスルーム（AI ツール）も積極的に活用し、一人ひとりが英語でやり取りする機会をさらに充実させていきたいと考えています。